

第2回袋井市総合計画審議会（議事要旨）

（日時） 令和元年11月6日（水）

午後6時30分～午後8時45分

（会場） 袋井市総合センター4階 大会議室

（内容）

- ①前期基本計画の総括評価、社会潮流分析、人口動態の整理及び市民意識調査の結果
- ②後期基本計画の施策体系見直し（素案）
- ③「人生100年時代」「Society 5.0社会」の到来を見据えた新たなまちづくりへの分野横断型による検討



（意見等）

- 施策体系見直し（素案）及び分野横断型の検討テーマなどについては了
- 市民の安全・安心という観点から、全国各地で発生した台風や大雨などによる水害や停電などへの対応も取組に反映していくことが必要
- 小さい頃から夢や希望を持てることが、地元への愛着や将来は袋井市に戻りたい、活躍したいと思うことにつながる。将来の夢や希望を持てる教育が大事
- 課題解決には、公助で解決できることが少なくなっており、市民や地域の自助・共助など役割分担が非常に重要ではないか
- 多世代や新旧住民、外国人などの交流できる場を設けることが、まちの中での新たな価値創出につながるのではないかと。また、まつりなど固有の地域資源や文化・芸術はそれをつなぐ重要な役割を担えるのではないかと
- ICTなど最新技術を課題に対して積極的に活用していくことが必要
- 袋井市の総合計画は、心と体の健康、都市と自然の健康、地域と社会の健康など他では見ない視点があり面白いが、施策レベルでは近隣市と差異が無い。例えば、専業主婦がプチ起業して隙間時間や商店街の店舗を時間借りするなど、他の地域にはできないような施策に先進的に取り組むと良いのではないかと
- 豊かさを実感できるまちづくりには、生産性に加え、量の拡大ではなく質の向上や持続可能性の視点が不可欠。また、女性が働きやすい、住みやすいまちづくりが大切。子どもができて働き続けられるためには、企業の努力はもとより、行政の働きかけも重要
- 自然な形で外国人と接することができる機会をまちや地域で作っていくことが、共生社会の確立や将来のまちを担う「人づくり」に重要ではないかと
- 高齢化が進展する将来を見通して道路整備や公共交通を考えていくべき